■田村怡与造 陸軍軍人。戦略に優れた知謀者で、“今信玄”として“今謙信”小川又次を補佐するも対立、不本意な人生に終る。

たむらいよぞう

開国開港・・・1854＝ 甲斐国東山梨郡相興村で、武蔵七党を祖とする中尾神社宮司の家系田村義事の長男に生まれる。

漢籍に造詣深く、刀匠としても聞こえるほどの父の教育を受けて育ち、

桜田門外変・1860＝ 6歳：

やがて、近在の一宮の神官古屋因幡の私塾に通い、

8月18日政変 1863＝ 9歳：

塾頭となるが、

薩長同盟・・・1866＝12歳：のち陸軍中將になる五弟沖之甫が誕生。

明治維新・・・1868＝14歳：この間、刃傷事件を起して、勤王の神官として知られた八代郡の武藤外記を頼り寓居、影響を受け、信濃山中で武藤が暗殺されたのを聞くと、現場に駆けて遺体を収容、武藤邸まで運び、板垣退助の甲斐官軍の置き土産(断金隊)を志願し、戊辰戦争が終わると、帰郷、

廃藩置県・・・1871＝17歳：のち陸軍中將になる六弟守衛が誕生。

学問のすすめ1872＝18歳：学制が敷かれて新設された中尾学校の教諭に迎えられ、

明治6年政変 1873＝19歳：中尾学校の校長となる。早川七良の娘伝子と結婚、

初の民間工場1875＝21歳： 陸軍士官学校生徒募集を知るや、妻のみに告げて出奔、上京し、旧2期生として入学。

実家からは勘当同然となり、早川家の養子となり早川姓を名乗る。

西南戦争・・・1877＝23歳：西南戦争には出征せず、戦地に赴く巡査の教育指導に携わる。

大久保暗殺・1878＝24歳：近衛兵の反乱(竹橋事件)後、_首席で卒業、親友の才子長岡外史とともに熊本行きを決意し、

琉球処分・・・1879＝25歳：_歩兵少尉として川上操六率いる熊本の歩兵第13連隊に配属後、参謀本部出仕となり測量課に移り、“工兵の父”と呼ばれ全国地勢図作成の基礎をつくった小菅智淵課長の指導を受ける。

・・・1880＝26歳：士官学校付となる。薩長藩閥の弊害を憂う長岡外史らが結成した{月曜会}にも参加。

明治14年政変1881＝27歳：

最初にして最後の参謀科将校小坂千尋に勧められ、

岩倉具視没・1883＝29歳：_ドイツへ留学し、公使青木周蔵の斡旋で、ベルリン陸軍大学校で学ぶ。

秩父事件・・・1884＝30歳：陸軍卿大山巖を团长とする訪欧使節団がドイツに来た際、接遇に奔走、小坂にも再会、

内閣発足・・・1885＝31歳：ドレスデンで実戦訓練に参加、歩兵大尉に昇進。ドイツ情勢報告書が評価され、2年の留学期間を延長して

滞在、森鷗外とも親交、クラウゼビッツの「戦争論」を知り、鷗外と熱中、

初の対等条約1888＝34歳：_帰国。監軍部(教育総監部)へ配属され参謀。陸軍大学校御用掛も兼務。父にも許され、田村姓に戻る。

帝国憲法発布1889＝35歳：この年、{月曜会}が解散を命じられる。参謀本部第一局員となり歩兵少佐に昇任。

帝国議会始・1890＝36歳：この年の第3回国勸業博覧会に父が出品した短刀が宮内省買上げとなる。*愛知県知多での、初めて明治天皇が臨席する未曾有の陸軍大演習の計画を命じられ、歴史を飾る“雨中統監”となる。フランス式からドイツ式軍制への転換に務め、演習の作戦計画を担当し、

足尾鉞毒始・1891＝37歳：_「(作戦要務令のもと)野外要務令」を策定、

大本教・・・1892＝38歳：_国防上の鉄道の重要性を指摘し、「鉄道敷設法」が制定される。

郡司千島探検1893＝39歳：朝鮮半島での利権巡り清との関係が緊迫、参謀次長川上操六らと渡航し情報収集。帰国後、対清戦争を想定して陸軍の戦時編成を立案。大本営設置に役割果たし、川上操六と分担して活動、

日清戦争始・1894＝40歳：*「(日本初の)兵站勤務令」策定。勃発した日清戦争では、大本営兵站総監部参謀として、前線での作戦指導を命じられる。歩兵中佐に昇進して第一軍参謀副長(司令官は山縣有朋)となり、参謀長の小川又次を補佐。独断で奉天への進撃を強行する山県や小川と対立、大本営に直訴、川上、伊藤博文をも動かし、勅命により山県が更迭されると同行して帰国。そのため、帰国後は大本営陸軍部幕僚付となり、

日清戦争終・1895＝41歳：一時休職後、歩兵第9連隊長として再び前戦へ。戦後、ベルリン公使館付武官として赴任する直前、韓国で閔妃殺害事件が起こり、現地調査を命じられ、

白馬会・・・1896＝42歳：ようやくドイツへ赴任。

八幡製鉄始・1897＝43歳：帰国。歩兵大佐に進級し、参謀本部第二部長に発令されて、

Bushidou・・・1899＝45歳：「戦争論」が忘れられず、高級将校にも伝えたいと、(左遷といわれた)小倉での鷗外の翻訳・講義の機会をつくる。_参謀本部第一部長となる。仮想敵国のロシアとの戦争が想定されるなか、参謀総長の川上が死去、シベリア方面を秘密裏に旅行、

ビアノ産化・1900＝46歳：陸軍少将、参謀本部総務部長、同第一部長を兼務。北清事変となり、

田中正造直訴1901＝47歳：北清事変終結の功で、勲二等旭日重光章。_脚気が嵩じて、身体が著しく不調になり、入院。退院休養後、

教科書疑獄・1902＝48歳：薩閥独占避けようとする大山巖参謀総長の意図から_参謀参謀本部次長に就任、鉄道会議議長を兼務。熊本での大演習は見学に徹し、体調不十分ながら、自らは消極的だった日露開戦を想定して戦略を練るうち、郷里甲府と東京を結ぶ笹子トンネル開通祝賀式に出席、衰弱はさらに進み、*「兵站勤務令」改正をやり終えると、入院、福島安正・大山巖らが駆け付けるなか、没した。陸軍中將に進級。

日比谷公園・1903＝49歳